

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2014年4月★第107号

大砲のような羽音の朝の飛び立ち～渡り鳥観察会～

「～水の歴史探訪バスツアー～渡り鳥のねぐら入り&朝の飛び立ち観察会」

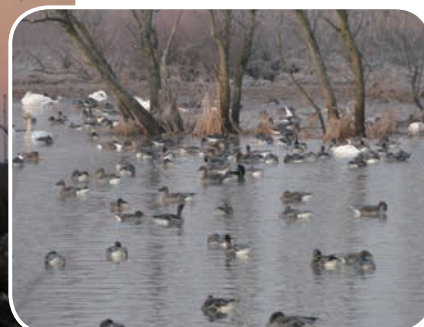
日 程：2013年12月21日（土）～22日（日）

内 容：21日 化女沼でねぐら入り観察

22日 蕪栗沼で飛び立ち観察など

例年は日帰りで夕方のねぐら入りのみでしたが、今回は朝の飛び立ちも観察しようと一泊で行ったもの。白鳥やマガンに交じってヒシクイもみられました。朝の飛び立ちは一斉の「羽音」がとどろき、その迫力にびっくり。

宮城県への冬の渡り鳥は年々増加して今冬は5万羽以上飛来したそうです。その背景には渡り鳥の保護活動の広がりとともに、稲刈りにコンバインが導入されて昔のように落穂をひとつひとつ拾うことがなくなり、餌が豊富になったことにもあるようです。



MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体で作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1 大砲のような羽音の朝の飛び立ち～渡り鳥観察会～
- P2 低炭素杯2014
- P3 ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P4 MELONcafe プチ講座
／かんきょう読み聞かせ「王様の冬のへや」
- P5 協同組合からのお知らせ
／50人リレートーク 伊藤絹子さん(50人突破!!)
- P6 震災から3年。エネルギーと復興について考える
／森林ボランティア、体験してみませんか？
- P7 「東北地区ESD環境教育プログラム」を作成しました！
／仙臺農塾「美味しいものの基本とは？」
- P8 事務局長交代挨拶／イベント一覧／編集後記

低炭素社会を目指した取り組みが全国各地から集結！ ～低炭素杯2014～

2月14日(金)15日(土)、東京ビッグサイトにて「低炭素杯2014」が開催されました。今年で4年目となる低炭素杯は、全国各地で低炭素社会を目指した取り組みを行う学校、企業、団体等が、互いの活動を発表し連携の輪を広げる大きなイベントです。今年は、1620団体がエントリーし、ファイナリストに選ばれたのは41団体。活動発表の結果、宮城県から出場したウジエスーパー＆ウジエクリーンサービスが環境大臣賞 グランプリ、宮城県農業高等学校が企画・審査委員特別賞 最優秀復興イノベーション賞を受賞しました！

宮城県からエントリーした6団体の取り組みを紹介します。



受賞者全員で記念写真

——ファイナリスト——

『エコガニック with ノーマライゼーション』 食品スーパーが提案する環境ループ事業

株式会社ウジエスーパー＆株式会社ウジエクリーンサービス（障がい者特例子会社）

スーパーから排出された食品残渣を有機肥料化し、それを契約農家が使用し米や野菜を生産、さらにその米を原料に地元醸造会社が日本酒や味噌を製造してウジエスーパーがプライベートブランドとして販売して資源循環を確立。また、地元のプロバスケットボールチームや高校などとタイアップし、環境活動にも取り組んでいます。そして、その全工程に障がい者を雇用し、社会的にも評価の高い取り組みです。



笑顔の素敵な堂々とした発表でした

絆を大地へ～簡易な根群除塩法の開発と普及～ 宮城県農業高等学校科学部復興プロジェクトチーム

震災による津波に吞まれながらも開花した校庭の桜を「復興桜」として後世に残していくべく、新校舎への植樹を目指した保存プロジェクトを、学校・地域が協力しながら行っています。高校生が中心となった植栽活動は、地域への波及効果も高く復興の促進も期待できます。



練習を重ねたチームのみなさん、見事受賞！

食のみやぎ復興ネットワーク なたねプロジェクト 食のみやぎ復興ネットワーク



食のみやぎ復興ネットワーク

震災で被害を受けた宮城県内の農業・漁業・食品関連産業者が、地域復興を目指すことを目的として、被災農地で菜種を栽培し、菜種油やはちみつをつくるプロジェクトを始め、飴やドレッシングなどを販売し、再生の輪が広がっています。

——宮城県からのエントリー団体——

地球と暮らそう！

株式会社 建築工房 零

国産無垢材と伝統構法での家づくりや自然エネルギーを取り入れる暮らしの提案を通して、住人の健やかな暮らしと真に豊かな社会づくりに取り組んでいます。

おもちゃの無料修理屋さん de エコスマ

仙台おもちゃ病院 エコ

地球温暖化問題であるゴミの削減やリユースを目標に、壊れたおもちゃを無料で修理・再生する事により、物を大切にすることを子どもたちに伝えています。

お弁当の食べ残し改善と 廃棄物「0」運動

宗教法人 長泉寺 ミネ幼稚園

「遠足ごっこのお弁当日」などのイベントを通して楽しくお弁当を食べることで、食べ残しを39.4%削減。それでも発生する食べ残しは堆肥化し廃棄物0に。

「冬の省エネ情報」見て・聞いて・触って・体験！ 冬のライフスタイルセミナー～ライフスタイルの転換で省CO₂を！～ 開催

日 時：1月26日（日）13:00～16:00
会 場：せんだいメディアテーク 1F オープンスクエア
特別講演：変わりつつある気象・気候 ～〇〇〇のウラ話～
尾崎尚之さん（「私立TBC気象台」気象予報士）
来場者数：380名（MELON推計）
主 催：環境省東北地方環境事務所
運営事務局：ストップ温暖化センターみやぎ

平成24年度のうちエコ診断の結果によると、宮城県の家
庭から排出されるエネルギーで最も多いのが自家用車（約
40%）、続いて暖房（約18%）です。このことから、家庭から
の温暖化防止を進めるため、木質バイオマスエネルギーを
活用した冬の過ごし方の提案や交通分野における省エネ対策
の情報提供のほか、地球温暖化の現状や対策について学び体
験できるイベントを開催しました。

特別講演では、気象予報士の尾崎尚之さんを招き、気象変
化と地球温暖化との関係についてお話いただきました。尾崎

さんによると、仙台
の平均気温は過去
100年で2.3℃上昇
していますが、最
高気温の上昇は1℃
程度にとどまってい
る一方、最低気温は
3.2℃上昇していま
す。これはヒートア
일랜드現象の特徴で、夜の気温が下がりにくくなっている
からなのだそうです。

ブース出展は、「交通分野」「木質バイオマスエネルギー分
野」「気象分野」「温暖化・省エネ分野」の4つのテーマにつ
いて、計13団体に出席いただきました。訪れた来場者からは、
「子どもも参加できる内容で良かった」「発見もあり楽しかった」といった感想をいただき、楽しみながら冬の省エネにつ
いて学んでいたようです。



多くの来場者が訪れました

推進員だより No.12

「地球温暖化防止啓発ツール作成・実践研修」で作成した啓発ツールを披露！

冬のライフスタイルセミナーでは、推進員の3つのチ
ームがブース出展し、研修会と打合せを重ねて作成したツ
ールを披露しました。

■「ライフスタイル“きづき”」チーム

実際の家庭の光熱費を比較したパネル展示や省エネ診断を
実施。これまでの活動で蓄積したデータや知識を活かして、
家庭で何をするとどれだけ減らせるかをアドバイスしました。

■「笑家子」チーム

都道府県の1人あたりの温室効果ガス排出ランキング
ゲームが子供から大人まで人気。ランキング順に重さの異
なるカプセルを5つ選び、てんびんを使って調べるゲーム
で、宮城はどうしたら減らせるかを考
えます。

■「太陽と私」チーム

手回し発電機で動くぬいぐるみが子
どもを惹きつけていました。家の見取
り図にエコな行動カードを選んで貼り
付ける「省エネゲーム」では、暮らし
の中からエコを考えていきました。

これらのツールは宮城県推進員共有
のツールとして貸出しを行います。使っ
てみたい方、出前に来てほしい方など
興味のある方はストップ温暖化セン
ターまでご連絡ください。



気候変動問題に取り組む 若者からの報告 CYJプレゼンツ！COP19報告会

2月8日（土）、「Climate Youth Japan (CYJ)」か
ら3名（吉岡渚さん、大橋祐輝さん、植原啓太さん）
を招き、昨年11月にポーランドで開催されたCOP19
の報告会を開催しました。3名とも現役の大学生であ
りながら、温暖化の国際交渉が行われるCOP現地に
行き、活動してきた方々。現地では、世界中から集ま
った若者ヘインタビューをしたり、「COY（Conference
of Youth）」という若者同士の情報交換、ネットワ
ーク作りなどが行われるミーティングへ参加したそう
です。COP会場で行われている若者の活発な活動の様
子が伝わる報告会となりました。



参加者とゲストのみなさん



MELONcafe

2月15日（土）13：30～15：30

「着物でリメイク★貝のおひな様作り」

3月1日（土）13：30～14：30

「米粉で簡単♪桜もちといちご大福作り」

2月は着なくなった着物を再利用して、ホッキ貝を使った「貝のおひな様作り」の講座を行いました。この日は記録的な大雪でキャンセルが続出し、参加者は4名でした。最初に、ゴミの減量についてお話をしてから作成開始。



ほっき貝でおひな様を作りました

布はあらかじめパーツに切っているの、当日は両面テープで貼っていくだけ。参加者からは「簡単にできて、大雪の中でも参加して楽しかった。」などの感想をいただきました。

3月は米粉の使用を促進するため、桜もちといちご大福を作る講座を行いました。現在日本では食料自給率が39%と戦後以降、輸入食材に押されています。地元の米粉を使って伝統の和菓子料理をすることで自給率のアップにつながります。今回使用した米粉は「白玉粉」と「道明寺粉」の2種類。どちらも「もち米」を細かく砕いたものです。親子で作って季節のお祝い事を楽しむのもいいですね。

5月には、着なくなった着物を再利用してポケットティッシュカバーを作ります。一緒に着物をリメイクしませんか？



親子の参加者もいちご大福と桜もちづくりを体験

今後のMELONcafe プチ講座

5月17日（土）13：30～14：30

「着物をリメイク♪ポケットティッシュカバー作り」

6月21日（土）13：30～14：30

「かわいい☆リメイクキャンドル作り」



王様の冬のへや — 工事現場をのぞいてみたら —

震災以降まちの中はどこもかしこも工事。でも、わたしは工事現場を見たいといつも思っています。壁の修理などしている人に話を聞いたりすると、小さな工事でもすごいぶん技術が進歩していると感心したりします。建設中のビルのクレーンをどうやって組み立てたり、降ろしたりするか、考えただけでも楽しいですね。

青山邦彦 作・絵「王様の冬のへや」（社団法人建築業協会 関西支部 2005年3月）はそんな工事現場で働く人たちが、どんな仕事をしているのかも、ていねいに書いてあるような本です。

寒がりなのでどんどんマキを燃やす王様がいて、森の木がどんどんなくなってしまいます。お城に住

んでいる芸術家のレイは動物の言葉が分かります。レイは小鳥たちの嘆くのを聞いて、王様に『あたたかくて、すみごちのいいへやをつくりましょう』といいます。レイは台所の廃熱で王様の部屋が暖まる工夫をしました。そして、壁もこれまでずっと材料になってきた石材とは違ったもので作ってしまいました。もちろん森の動物たちも手つだいしました。



この本を読み終えたら、『どうしたら森の木を切らずにすむだろうね』などと子どもたちの前でつぶやいてみて下さい。「寒がりな王様なんかいない」って子もいるだろうし、「最初から王様に外で遊ぶことを教えてあげればいいのに」とか「お城の中はやっぱり森の木をつかわなくてははいけないでしょ」「どんどん森を作ればいいんじゃない」「作っている時につかた木などはもう一度つかえばいいんだし・・・」などと、レイのようにいい考えを自分の子どもから聞くことができるかもしれませんよ。王様だけでなく自分たちの住まいと森の関係を知らない機会になるかもしれません。

各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

～みやぎ生活協同組合～「植林体験会＆ドングリ苗の里親募集」

みやぎ生協が行っている森づくりの活動として「こ～ぶの森台ヶ森」に植林を行います。南川ダムの上流に広葉樹を植えるに行きましょう。また、来年の植林に備えてドングリの苗を育ててくれる方を募集します。

1. 「こ～ぶの森台ヶ森」植林（黒川郡大和町吉田）5月10日（土）

◆バス乗車希望：仙台駅西口大型バス発着所 9:00集合 30人募集（応募多数時抽選）

参加費 大人2,000円、中学生以下1,000円、未就学児無料

◆現地集合希望：七ツ森湖畔公園 9:30集合（定員は定めません）

参加費 大人500円、中学生以下250円、未就学児無料

◆申込締め切り：4月25日（金）

2. ドングリ苗の里親：申込締め切り5月16日（金）

◆みやぎ生協国見ヶ丘店駐車場に、5月31日（土）13:00～17:00に苗を取りに来てくださる方。（お1人につき2～3本の苗を無料配布）



昨年の植林の様子

※企画名（1. 植林 または 2. 苗の里親）、住所、氏名、電話番号を明記の上、下記までお申込下さい。

申込・連絡先 みやぎ生協生活文化部くらしの活動事務局

〒981-3194 仙台市泉区八乙女 4-2-2

TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663 メール：sn.mkankyok@todock.jp



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク

50人突破!!



第50人目の執筆者

伊藤絹子さん

（東北大学大学院農学研究所
水産資源生態学分野 助教）

みなさんの近くではどんな生物をみることができますか？環境省によると日本には多くの固有種がいるそうです。一方、渡り鳥のような生物にとっても日本は貴重な環境にあるようです。今冬も自宅近くにオオハクチョウがやってきました。遠くシベリヤから渡ってくる白鳥家族の生態も気になりながら、私は川や海に出かけ、食料資源である魚類や貝類の生態、環境との関係について研究しています。

その中で感じたことを紹介します。まず「生物の生産力」の大きさです。私たちは太陽光を直接、生命活動に利用できません。植物が光合成により化学エネルギーへと変換、有機物を合成し、同時に酸素を産出します。このしくみが生命維持の基盤です。水の中では1mmにも満たない植物プランクトンが担います。植物を起点とした生態系の一員として魚類や貝類の生活があり、一部を私たちは食料として利用しているのです。たとえばホタテガイは最初の1年間で体重は100倍以上に成長します。これを支えているの

は多種多様なプランクトンの生命活動、自然の力です。

第二に「変化の過程」であるということ。自然界の生物は場所を移動することにより、適した環境で生活しています。サケも数千kmの旅をして、数年後生まれた川に戻りその一生を終えます。アユは生後すぐに海へ降り、春に川へ遡上、成長して、産卵後、1年の短い一生を終えます。この間、私たちがあまり目にするものがない何百種類の生物に支えられ、大きな変化を遂げてゆきます。

便利で快適な生活は自然を遠ざけ、自然のしくみのなかで生きているという意識を希薄にしていきました。科学は全てを解決できるという錯覚さえ抱いてしまうかもしれません。しかし人間の都合だけを最優先してはならないはずです。私たちの生命は多くの生物の生命活動の結びつきにより支えられています。「ヒトは自然とどのように関わってゆくべきなのか」今まさに問い直すときだと思います。

◇連絡先

仙台市青葉区堤通雨宮町1-1

Tel.022-717-8729 Fax.022-717-8731

Email：itokn@bios.tohoku.ac.jp

… 次号からの連載 …

「目指せ100人！環境リレートーク」
バトンをMELONに戻し、現事務局長を
51人目として再スタートします！



震災から3年。エネルギーと復興について考える

MELONでは震災から3年をむかえるにあたり「震災後のエネルギー」のあり方について2つのイベントを開催しました。

自然エネルギー体験 in 南三陸 「福興」農家レストランモデル住宅

日 時：3月2日（日）11:30～15:00 参加者：7名 事務局：2名
見学場所：①「農漁家れすとらん 松野や」 ②「志津川さんたろ館」

南三陸で自然エネルギー、食料の地産地消について学ぶ体験会を開催。1軒目の「農漁家れすとらん 松野や」では、南三陸木の家づくり互助会と共同で建設した木造の復興住宅を見学し、おかみの愛情がこもった南三陸の海山の幸「大漁御膳」をいただきました。2軒目の「志津川さんたろ館」では、筑波大学名誉教授の安藤邦廣教授より「板倉構法」について、NPO法人フォレストサイクル元樹の蛇口さんより薪ストー

ブについて、南三陸木の家づくり互助会の後藤一磨さんより南三陸の森林や復興住宅についてお話をいただきました。

ライフラインが途絶えても独立してエネルギーが得られる薪ストーブ・薪ボイラーに直接触れることができ、参加者にとって新鮮だったようです。今回の会場の2軒は「福興」モデル住宅で木材を豊富に取り入れた住宅です。宮城県の森林保全のためにも、これから建設される住宅には県産材を積極的に使っていきたいですね。



後藤一磨さんより復興プランについてお話をいただく

「あらゆる面から真剣にエネルギーについて考える会」

～脱原発の行方と復興住宅に備えるべきエネルギー設備～

日 時：3月8日（土）13:00～17:40 参加者：195名 事務局：4名
会 場：東北大学片平キャンパスさくらホール
講 師：辰巳菊子さん（（公社）日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会常任顧問）、長谷川公一理事長、菊地重雄さん（NPO法人川崎町の資源をいかに活用する理事長）、武内賢二さん（（株）ソーラーワールド代表取締役）、三浦秀一さん（東北芸術工科大学准教授）、佐藤円さん（すみやのくらし@セツケ宿の白皮）
司会・コーディネーター：村松淳司理事

東北の風土や文化を生かしたできるだけ電力に頼らないエネルギーシステムとは何か。さらに省エネルギーで、真に地球環境に優しい低炭素循環型で、来るべき次の震災に強いライフスタイルについて考える会として開催しました。趣旨説明では村松理事が日本のエネルギー需給の現状を紹介。基調講演では辰巳さんに「生活者から見た震災後のエネルギー・環境」と題し、生活者の立場として具体的な提案をいただきました。長谷川理事長が「震災前後での日本のエネルギー需給の変化とこれからのエネルギーについて」概括し、三浦さんより「木質バイオマスの活用方法」を、菊地さんより「川

崎町の水車による自然エネルギーの活用事例」、武内さんには「家庭でできる太陽光発電システムの活用術」について、佐藤さんには「セツケ宿での木質バイオマス活用方法」をお話いただきました。また、これから本格化する復興住宅建築にとり入れてほしい事項をMELON版復興住宅検討委員会がまとめ、作成した小冊子「杜に住まうエコな家。～宮城県産材を使った木造住宅のススメ～」を村松理事が紹介。パネルディスカッションでは各専門家と参加者が直接意見交換をし知識を深めました。会場1階ではエネルギー関係や省エネ、被災地での復興活動を行っている企業・団体のブースを設けました。

エネルギーの現状から復興住宅に備えるべきエネルギー設備まで、将来を見据えたエネルギーとは何が良いかと考える機会となりました。今後もMELON版復興住宅検討委員会は上記のようなイベントを開催していきたいと思います。



講師と参加者が活発に意見交換

森林ボランティア、体験してみませんか？

冬真っ盛りの1～2月、森の手入れは木が成長をお休みするこの時期が本番です。

みやぎ里山応援団では、この冬2つの森林ボランティア体験を実施しました。

1つは一般募集の体験講座としてNPO法人フォレストサイクル元樹の活動に参加。樹皮を剥ぐ作業やチェーンソーでの丸太切り、斧を使った薪割りなどを体験しました。もう1つは尚絅学院大学の学生が、緑を守り育てる宮城県連絡会議の活動に参加。杉林で、ノコギリや高いところの枝も切れるハサミを用いて枝打ち（下の方の枝を切る作業）を行いました。

「刃物自体使う機会がめったにないので心配でしたが、実

際に作業をしてみると無心に取り組めて楽しかった。里山を守ることは手間のかかることだと実感した。」との声。寒さが堪えたようでしたが、体力の有り余っている若者がどんどん森で力を発揮してくれればいいなと改めて感じました。里山応援団ではこうした機会作りに今後力を入れていきます！



1 / 10 冬のキコリ体験会で

MELON 事務局長交代のご挨拶



前任の木城さんから事務局長職を2014年1月21日付で引き継ぎました大原英範と申します。

実は、木城さんの前任者が私なのでということでは、2度目になります。

さてMELONは、緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地球環境の保全に寄与するために、多くの市民、知識人、協同組合、企業、団体でつくられた環境NGOです。1995年に財団法人として設立し、活動を続け20年を迎えるまでになり、2012年には公益財団法人となりました。これまでの20年という年月の中でMELONの活動にご尽力いただいたたくさんの理事・評議員・スタッフ、そして何よりも会員の皆様に支えられて、今のMELONがあります。改めて感謝申し上げます。

大勢の皆様によって培ってきたMELONの環境保全活動をこれからもさらに進めていくように努める所存でございます。どうぞこれまで通りMELONへのご協力をお願い申し上げます。



MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/13(日)	GO!GO!89ERS!!ECO スクール 「環境に配慮した『無限のぼり米』で作るジャンボ! 8.9mの必勝祈願寿司づくり」開催
4/16(水)	4R 推進部会 例会
4/21(月)	企業交流部会 例会
4/26(土)	「新緑祭」に里山応援団ブース出展
5/12(月)	MELONcafe 例会
5/14(水)	「仙臺農塾『幻の伝統野菜・小瀬菜大根～新たな春の魅力を味わう～』」開催
5/15(木)	自然エネルギー部会 例会
5/17(土)	MELONcafe プチ講座「着物をリメイク♪ポケットティッシュカバー作り」開催
5/24(土)	第9回「ベランダ園芸講座～緑のカーテン～」開催
6/8(日)	水部会 広瀬川水質調査
6/11(水)	「仙臺農塾『ほやおやし直伝! 目からウロコのおいしい食べ方』」開催
6/21(土)	MELONcafe プチ講座「かわいい☆リメイクキャンドル作り」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

..... 編集後記

■先日の講習会・・・「動物園の糞は一般廃棄物又は産業廃棄物のどちら？」答えは、法律では畜産農業からだ「産業廃棄物」、だけど動物園は畜産農業にあたらないので同じ糞でも「一般廃棄物」。うーん難しい。(大原)

■毎年苦しむ花粉症、かかりつけの耳鼻科での会話。「先生、花粉症って治るんですね。」「小林さん、大丈夫だ! アレルギーなんて、年をとってもっと重い病気になれば症状出なくなるから。」「・・・」(小林)

■エコバックを持って、お昼ごはんを買いにコンビニへ行くと、最近、「袋いりませんよね。」と声をかけてもらえるように。こんな光景が身近でもっと見られるようになりますように。(三浦)

■消費税が8%になりました。前々から購入しようと思っていたものは早く買っておけば良かった…と後悔しきりです。(高橋)

予告

「MELON会員と市民のつどい(MELONフェスタ)」

今年は9月20日(土)に開催予定!

詳細が決まり次第お知らせします。

〈会員状況〉

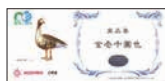
787名

法人 80

任意団体 13

個人 694

2014年3月5日現在



ボランティアポイントカード制度をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをすると、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5713

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送・マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に賛目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。